



2019年6月15日発行

No.45

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】 <https://www.waseda-honjo.jp>

最近見た映画

学院長 半田 亨



出張を含む海外旅行で一番辛いのが飛行機の中での時間つぶしです。当然、ビジネスクラスはあり得ず、エコノ

ミークラスしか選択肢がありません。私は背が高いので、狭い席は体に応えません。韓国便や台湾便のような短い路線ならばともかく、特に夜便や長い欧米便は、足も延ばせないし、横にもなれないため、苦痛しかありません。それでも通路側ならトイレに行くときに気を使わなくて済みますが、窓側や間の席だと、いちいち通路側の人を煩わせなくてはなりません。

そんな飛行機の旅の少ない楽しみが、機内映画を見ることです。飛行機に乗るときは早起きしなくてはならないため、大概寝不足であり、さらに狭い機内でリラックスできないため、筋が難しかったり深刻な内容の映画は避け、単純に楽しめるラブコメアクション、SF物を見ることにしています。片道に、韓国便では90分くらいの映画を1本、台湾便では2時間くらいの映画を1本、タイやシンガポール便では2本を目標にしています。

1月のタイ出張では、友人や保護者会幹事の方から勧められていたQueenの「Bohemian Rhapsody」がリストにあったので見てみました。高校時代からのQueenが好きで、その後もよく聴いていたので、「この曲にはこんな背景があったんだ」と納得しながら見る事ができました。フレディ・マーキュリーもそうですが、ギターのブライアン・メイ、ドラマーのロジャー・テイラーについては、「よくぞこんなに似た人を探した!」という印象でした。この映画は、実際にしてみると単なるロックグループのドキュメントではなく、フレディ・マーキュリーの人生を通して、民族宗教・性ダイバーシティ・HIV等私たち人類が考えなくてはならない様々な視点が扱われている、深みのある映画でした。帰路には、リストに「日々是好日」がある

のを発見しました。茶道部の顧問としては一度見ておかななくてはならないと思っていた映画でした。夜便でしたが、これを逃すとの後、いつ見られるかわからないので、見ることにしました。茶事に関わる様々なエピソード、例えば12年毎にしか使わない千支のお茶碗、お湯と水の音の違い、それぞれの所作の意味等々、茶道をやったことがある人には「そうだよな」「そうだったのか」と思える内容が随所にあり、茶道の深さを教えてくれます。お茶碗やお菓子の映像是本当に奇麗に撮られていて、驚きでした。お茶の世界の深さを紹介する映画としてはとても良くできていて、今度茶道部の諸君にも見せたいなと思いついて、DVDを購入しました。

3月のシンガポール出張では、万引き家族を見ました。あの柴田家「家族」の人間関係が実は想像以上に複雑で、私にはなかなか理解できませんでした。樹木希林演じる初枝が急逝してからの家族関係の崩壊が見ていてつらくなり、祥太が警察に捕らえられたあたりで見るのをやめ、眠りました。

私はこの4月から学院長となりました。新入生とまったく同じで、まだよくわかっていない本庄高等学院について一緒に勉強していく立場です。実際になつてみると、覚悟はしていましたが、予想を遥かに超える「仕事」があります。でも、「仕事」を機械的に処理するのではなく、なんらかの自分の「味」を出したいなと思っています。単に目の前の「仕事」をこなすだけの日々だと、自分の味を出すための「出汁」の量がどんどん低下していくような気がします。例えば、本も読まなくなりました。テレビもニュースしか見なくなりました。それでも新聞はどんなことがあっても、毎朝朝食の時間に全面に目を通すようにしています。機内で見える映画も、自分の「出汁」の補充に役立つのかもしれない。

微力ながらより良い本庄高等学院を目指し尽力したいと思っています。そのためには、皆様の協力が必須です。改めて、よろしくお願い申し上げます。

令和の時代に求められるインテリジェンス能力

保護者の会 会長 林 之成



5月11日(土) 稲穂ホールにて、保護者の会の主催で、現在早稲田大学生である6名の学院卒業生を壇上に迎え、

「大学生生活から学院生活をふりかえって」をテーマに講演会を開催いたしました。講演で終始私が感じたことは、学院の卒業生は「自己のゴール達成に対する自己能力の自己評価が高い」ということでした。

そのひとつに、「学院で2万字を超える卒論に1年以上かけてとりくんだこと」で、大学でのレポートに対して全く恐れがない。大学がはじまってからも授業で気後れするようなことがない。」というコメントがありました。

自ら問題点を見つけ出し、テーマ設定し、情報を集め、そして論理的に書く、という能力は、意図して訓練しなければ身につかない技能です。テーマ設定からいきなり壁にぶちあたります。与えられた課題を言われたとおりにこなす、のとは全く異なる作業です。

次々と現れる知的作業における壁の突破は、自己の利益という低い抽象度の目的では乗り越えることができません。自分の卒業のため、というモチベーションではつらすぎるのです。そうではなく、テーマについて何らかの新たな視点を生み、それを読む人類に何らかのインパクトを与える……といった一段高いものの見方・視点を発明し、夢中になることで、おもしろみもやりがいも生まれます。そして、やりきったときの充実感は次の新たなエネルギーを生み出します。その積み重ねは、立派な知的財産です。

社会に視点を移すと、その能力は不可欠となります。中でも集団の目的設定とそれにもとづく意思決定に大きく影響を及ぼすのは、国においては相手国の情報収集、企業においてはグローバルなマーケティングといった、インテリジェンス、

つまり相手に対する情報収集力です。自分のメリットを優先するコスト主義に陥ると、こうした目に見えない作業は省かれがちですが、インテリジェンスを失ったとたん、その集団は孤立し、活力や成長は失われていきます。

インテリジェンスにかかわるコメントで印象に残るものがありました。「高校3年間にずっと英語学習に励むべきであった」というものです。単なる外国語の習得とは次元の異なる切実さがこめられていました。

日本語には、日本語が伝わる情報空間があります。方言には、方言が伝わる空間があり、トレード語(公用語)には、公用語としての伝わる空間があります。平成の時代は情報手段の多様化・スピード化が格段に進み、今や英語は「外国語」ではありません。日本人は誰でも公用語として、スピーチと論文の読み書きスキル習得のために5年間英語を学んでいるわけですから、あとは日本において、たとえ日本人どうしであっても必要な場面で公用語として使うだけです。公用語として英語を使うのであれば、公用語ネイティブである日本人は、会話方言として英語を使っているネイティブ英米人らに対してコンプレックスを抱く必要は全くありません。足りないのは、実際に使い、世界を意識した情報空間をつくりだすということ。これは、世界の中の日本で生きていく上で重要な視点です。

こうした情報空間の必要性を強く認識しつづけていたのが、大隈重信先生です。現在、早稲田大学は教育施設も刷新され、世界No.1ユニバーシティをスローガンにしていますが、創立当時より、早稲田のもつ情報空間は「世界のなかの早稲田」であり、本庄高等学院はその一部です。さらなる発展には、この空間を使い倒す生徒、先生、そして寄付等でささえる保護者・協力者の力が不可欠です。

来年には、斬新なデザインをもつ体育館が完成予定です。どのような情報空間が生まれるのか楽しみです。



人が人を評価するとき、例えばスタイフジョブズを評価するとき、Macを作った、iPhoneを作ったなど、その人の業績で評価することが多い。しかし、人を業績で評価していても、評価している人は決してその人以上の業績を出すことはできない。すばらしい業績を出すまでの行動にはどういった特性があったのか。このことを解明することで、多くの人が良い業績を出すことができるようになるのではないだろうか。

このような「高い業績や成果につながる行動特性」を「コンピテンシー」と呼んでいるが、何かをやり遂げたいと考えている人にとって、とても参考になるものである。

高校生である皆さんは、なりたい自分像をおぼろげではあるが持っているものの、「これから社会は不透明である」となど聞くところ、何をしたらよいかわからず、不安になるかもしれない。では逆に、将来が分かっている今を送っている人がどれくらいいるのだろうか。

「未来を見据えて何が起きるかなんて予測は不可能だ。いつも過去を振り返ってみて、あれこれ繋がっていた、としか言えないんだ。だから自分自身が信じるものを信じるしかない。それが勳である。運命である。人生である。因果である。なんでもあれだ。このやり方で私は後悔したことはないし、私の人生で非常に大きな役割を果たした。」

「It is impossible to predict what will happen in the future. I always look back on the past and can only say that this was connected. So I have to believe in what I can believe. Whether it be intuition, fate, life, or causality. In this way I have never regretted and have played a very important role in my life.」

これは、ジョブズの言葉である。道に迷ったときや先が見えずに不安になったとき、何かを信じて行動してきた。偉業を成し遂げた人の「コンピテンシー」はきっと皆さんの道先を照らす灯になるはずである。

皆さんが、どんな人を目標にしているか、どんな生き方をしているのか楽しみである。

TK



英国パブリック スクール訪問記

英語科教諭 高山 正弘

昨年度早稲田大学の特別研究期間制度を利用していただく機会をいただきました。研究目的は、CEFR（欧州言語共通参照枠）とそれを推進するツールとしてのELP（欧州言語ポートフォリオ）の研究ですが、5月におよそひと月余り、資料の収集も兼ねてロンドンで研究生活を送りました。研究の遂行は無論ですが、せっかくのロンドン滞在のメリットを活かしたいと思い、かねてより念願でもあったパブリックスクール（注：主として中・上流子弟のための私立中等学校の通称。寄宿制で、中世以来の古い伝統を有する）を訪問することにいたしました。今回三つのパブリックスクール、モーバン(Malvern College)、イトン(Eton College)、それとハロー(Harrow School)を訪れることができました。紙数の関係で三校について詳述することはできませんので、一番初めに訪れたモーバン校を中心にパブリックスクールの教育について述べてさせていただきます。モーバン校ですが、場所はロンドンから2時間半のWorcestershire州のGreat Malvernが最寄り駅で、Malvern Hillsという丘陵地帯に位置する豊かな自然と広大なキャンパス（およそ100万平米で本庄学院より広い）に恵まれています。この地域は日本ではコッツウォルズ地方と言った方が馴染みがあるかもしれません。ここには緑の草原が穏やかにうねる美しいイギリスの原風景があります。創立は1865年と古く、卒業生に『ナルニア国ものがたり』で日本でも知られている作家のルイス(C.S. Lewis)を輩出しています。共学校で、生徒数はおよそ660人（年齢は13―18歳）、ほとんどの生徒が寮住まいです。生徒の男女比率は男子55%、女子45%でほぼ本庄と同じ。多くの生徒がGCSE・Aレベル（大学入学資格Aレベル）をとり有名大学に進学多数。またIB教育を展開している、英国以外に、中国の青島、成都、エジプト、香港にもMalvernの名前を冠したInternational Schoolsを擁しています。今回担当をしてくださったアランさんからは自身がハロー校（政治家のチャーチルや最近ではシャーロックホーム

ズの映画の主演等で知られている俳優のカンバーバッチを排出）の出身で、パブリックスクールの内情に精通していることもあり、要所を押さえて丁寧にキャンパス内や校舎内を案内いただきました。また学校の教育方針や寮、サマープログラムや留学等についても詳細な説明がありました。案内を受けながら、いくつかの教科の先生方とも話をする機会を得ました。物理科の女性教諭の方からは本学と共通する理系進学の問題があることもわかりました。当日はオープンキャンパスの日でもあったため、多くの保護者や受験予定の子供たちを学内で見かけましたが、直ぐにこうしたパブリックスクールを志願する子供たちの発する育ちの良さや落ち着いた雰囲気というものを感じました。学内の充実した体育関連施設や食堂などの諸設備、ステンドグラスに彩られた荘厳なチャペル（礼拝堂）やエバリーグリーンのよく手入れされた芝生のクリケット場や校庭、どれをとっても一流の教育環境には目を瞠（みは）りました。パブリックスクールの教育において、伝統を守ることが大事で依然として学校の教育の指導原理を形作るものであり続けてはいますが、長年にわたって繁栄を享受し存続してきた背景には、常に革新への積極性があつたからにはかなりません。全人教育が施されていて、学業だけでなくスポーツや芸術も生徒個々の興味・関心に応え且つ才能を存分に生かせるような多種多様な活動の場や校外教育プログラムが用意されていることも特徴として挙げられます。またキャンパス内の寮での集団生活を通して、自律や協調性、連帯意識の醸成を図ることも伝統の一つです。将来オックスフォードやケンブリッジ、他の一流大学に進学し、有為な指導者として世界を股にかけて活躍するリーダーの素養を培うことは正にパブリックスクールの教育の真骨頂ともいえるでしょう。英国のパブリックスクールは学校の校舎そのものが歴史的遺産であり、教育環境の面から見ても比類なき文化的価値を有するものではありませんが、それも含めて、教育のありかたの観点からも、まだまだ学ぶことが多々あることを感じさせてくれました。



アラン・ウオーカー氏とモーバン校チャペル前にて

スーパーグローバルハイスクール(SGH)の取り組み

一集大成の年、そして2020年以降へー

2015年度に文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受けて以来、本学院では「国際共生のためのパートナーシップ構築力育成プログラム」をテーマに、学院内や国内外をフィールドにした様々な研究課題に取り組んできました。本学院のSGH関連の授業や、発展的内容の課外活動で展開される国内外交流プログラムは、高校生が知識や深く考察する力を駆使して課題への「問い」を立て、多様な経験や文化をもつ仲間と好ましい人間関係を築きながら、協働で課題に取り組む機会を提供すべく企画されています。

アジアのパートナー校や国内のSGH指定校を招いて昨年度に実施した高校生学会Waseda International Symposium on Education and Culture (WaISEC)では、企画や運営にも本学院生が主体的に取り組み、研究発表・ディスカッションセッション・「自然と人間の共生」をテーマにしたフィールドワーク企画と協働学習などの濃密かつ多彩な学術交流を展開しました。また海外ゲストには3年生企画の学年ぐるみ交流会、1年生全クラス企画のLHR・学食経験・授業経験、2年生全員が参加した研究発表・ポスターセッションなど、全校生が何らかの形でWaISECに関わる時間を持ってました。2017年末に始動し、2018年度に企画・広報・運営などほとんどすべてを担った150人のWaISEC実行委員の力は目覚ましく、高校生の力で見事な国際学会を実施できたという共通経験は本学院の学校文化を一段と豊かにしたように思います。

何よりも、海外を含む他校の生徒と「国際共生」等について深い意見交換をしたいと考える生徒が増えています。吉田茂前学院長はSGHのプロジェクトに真剣に取り組む学院生の姿を評し、このように述べられています。

「(WaISECでは)国や政治体制の異なる高校生が本学院のSGHの主要テーマである『国際共生』について熱い討論を展開した。中には『沖縄の基地問題』『韓国における従軍慰安婦問題』『ネパールの少女売買と貧困問題』などの難問が含まれ、討論が停滞するの

ではないかと心配したが、それは杞憂に終わり率直な意見交換がなされた。ある実行委員の一人は「私たちはこれからの社会を担う身として、これらの問題に目を背けることなく正面から捉え、アジアの高校生と語りあうなかで、ほんの少しでもその問題解決の端緒を見出したい。そして行動を起こし、その行動の輪を広げたい。」と語ってくれたが、この意思こそグローバルな時代を生き抜くうえで必要な覚悟ではないかと頼もしく感じている。」(2019年3月)

今年度も「政治・経済」「英語」「世界史」「古典」「家庭科」と卒論作成指導が関わる授業内プログラムに加え、海外パートナー校とも連携した以下の研究課題について、5年間の成果をまとめ、2020年以降に新たな形で展開できるカリキュラムを検討しながらSGH事業を進めていきます。

- ・「グローバル社会と人権」(韓国 ソウル国際高校)
- ・「紡績業を中心とする教科横断型授業」(上海 江蘇省蘇州中学)
- ・「インバウンド観光プランの協働学習」(シンガポール National Junior College)
- ・「相互訪問とオンライン交流で進める発信型プロジェクト」(インドネシア SMA N2 Yogyakarta)
- ・「修学旅行交流校とのテーマ学習型交流」(修学旅行 交流校)
- ・「国際共生学を踏まえたボランティア活動」
- ・「学習交流ウィークの開催」(上記交流校のうち2、3校を2学期に招聘予定)



理数関連プログラム報告 (2018年12月～2019年4月) (詳細は学院Webサイトを御覧ください)

□Thailand International Science Fair(TISF)2019およびMahidol Wittayanusorn School(MWITS)との交流活動

1月5日(土)～1月13日(日)に生徒9名(3年内田南・飯野七夏・佐藤絢香・庄子萌香・渡邊輝・網倉七帆・植田歩実乃・2年伊藤風沙・中岸美緒)がMWITSを訪問し、世界最大規模の国際高校生科学フェアであるTISFに参加し、研究発表・科学コンペ・文化交流を行いました。開会式ではシリントン王女にポスターセッションでご質問を受けるという名誉にも恵まれました。プレゼンテーションでは、コメンテーターから多大なお褒めの言葉をいただきました。

□Singapore International Science Challenge(SISC) 2019/International Student Science Fair(ISSF)2019

3月17日(日)～23日(土)の日程で3年松本綾香・内田南、2年佐久間紀丞がシンガポール政府主催のSISCと世界最大規模の国際高校生科学シンポジウムであるISSFに参加しました。会場校であるNJCが、2年に一度のSISCと世界中の会場校をめぐるISSFを同時に開催した形です。課題コンペで内田南が2位、松本綾香がベストアイデア賞を獲得しました。

□MWITとの交流活動

4月18日(木)～24日(水)の日程で、交流を続けているタイのMWITの生徒10名教員2名が来校し、交流活動・研修活動を行いました。特にパフォーマンスにご協力いただいた書道部の皆さん、歓迎お茶会を開催してくださった茶道部の皆さん・会場の有勝寺様、授業交流にご協力いただいた1G・1H・3Bの皆さん、パディの皆さんにこの場を借りてお礼申し上げます。

□地域貢献活動

*本庄市民シンポジウム

「川のシンポジウム2019」

3月16日(土)に本庄早稲田リサーチパークに於いて、標記シンポジウムを本庄学院・藤田小学校の主催で開催しました。高校と小学校が一般市民に向け、河川環境について啓蒙するシンポジウムを開催するということは全国的にも極めて稀な例です。

*市内小学校での科学教育活動(講義・実験)

- ・12月5日(水)共和小、テーマ「風力発電機を作ろう」
- ・12月7日(金)東小、テーマ「川の生物」「磁石の不思議」
- ・12月11日(火)北泉小、テーマ「水の大切さ」「川の生物」
- ・12月12日(水)藤田小、テーマ「プレゼンテーションの名人になろう！～Ready Made Presentation～」
- ・2月6日(水)藤田小、テーマ「プレゼンテーションの名人になろう！～Ready Made Presentation～」
- ・2月13日(水)藤田小、テーマ「プレゼンテーションの名人になろう！～Elevator Presentation～」

□河川研究班の活動が平成30年度 彩の国埼玉環境大賞奨励賞を受賞しました！(2月15日)

2009年から継続している河川研究班の河川環境保護活動、市民への広報活動が評価され、埼玉県から標記の賞をいただくことができました。

□課外講義「これがサイエンスだ！」 冬合宿開催

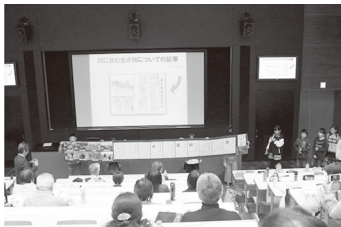
12月21日(金)から23日(日)にかけて、本庄キャンパスにてゼミ合宿が行われました。期間を通じて参加者は数学・情報・物理・地学の4つのパートに分かれ、それぞれの課題に取り組みました。また、全体会として数学や物理に関する特別講義も聴講しました。



Thailand International Science Fair 2019



ISSF/SISC2019



川のシンポジウム



MWIT本庄学院来校



河川研究班、彩の国環境大賞奨励賞受賞



「これがサイエンスだ」冬合宿(数学パート)



「これがサイエンスだ」冬合宿(地学パート)

生徒達の活躍

◆陸上部

個人種目、リレー共に北関東、さらに全国インターハイを狙っている陸上部は県北予選会を好調にスタートしました。400mリレーでは男女共に優勝、1600mリレーでも男子の優勝と女子の3位となり、チーム力が問われる学校対抗の総合順位でも男女で高い順位を得ました。続く県大会でも円盤投げで優勝した栗島さんを始め、棒高跳、400mハードル、400mリレーで6月に茨城で行われる北関東大会への出場を果たしました。沖縄での全国大会を目指しチーム丸となって引き続き練習に励んでいきます！

県北大会結果

男子
100m 2位 平野 颯人(3) 11"14 風-1.0m
200m 3位 平野 颯人(3) 22"52 風-0.9m400m
2位 若林 樹(2) 50"43
800m 5位 野口 文也(3) 2'03"62
400mハードル 2位 若林 樹(2) 55"02
走高跳 3位 田中 千季(3) 1m75
棒高跳 1位 吉田 英晃(2) 4m10
2位 関 亮哉(3) 4m00
走幅跳 5位 堀切 王貴(3) 6m25 風+0.2m
4x100mリレー 1位 早大本庄(渡辺一平野-江田-堀切) 42"91
4x400mリレー 1位 早大本庄(中島一平野-田中-若林) 3'23"38

トラック 3位 早大本庄 52点
フィールド 4位 早大本庄 24.5点
総合 2位 早大本庄 76.5点

女子

100m 3位 今西 奏乃(2) 13"19 風-1.9m
7位 内田 遥子(2) 13"48 風+0.2m
8位 小崎 万衣波(2) 13"60 風-2.3m
800m 6位 飯野 七夏(3) 2'29"10
1500m 6位 小林 香菜(3) 4'52"44
3000m 7位 小林 香菜(3) 10'31"52
400mハードル 3位 為田 夏実(2) 1'10"71
5000m競歩 3位 野村 音々(3) 27'18"01
走高跳 4位 高野 菜(3) 1m50
走幅跳 3位 今西 奏乃(2) 5m13 風+2.4m
砲丸投 6位 栗島 優都紀(3) 9m00
円盤投 1位 栗島 優都紀(3) 33m05
やり投 8位 井上 絵理(3) 28m94
4x100mリレー 1位 早大本庄
(内田-小崎-松永-今西) 50"30
4x400mリレー 3位 早大本庄
(為田-高野-中村-飯野) 4'12"74

トラック 4位 早大本庄 43点
フィールド 5位 早大本庄 23点
総合 5位 早大本庄 66点
(その他県大会出場者、自己ベスト更新者多数)

県大会結果

男子
400mハードル 4位 若林 樹(2) 54"84
棒高跳 4位 関 亮哉(3) 4m30
4x100mリレー 4位 早大本庄
(渡部-平野-高橋-高田) 42"17

女子
5000m競歩 5位 野村 音々(3) 26'46"91
円盤投 1位 栗島 優都紀(3) 33m80

◆バドミントン部

大会名：埼玉県会長杯争奪高校バドミントンダブルス大会

開催日：平成31年3月16日(土)・17日(日)

開催場所：くまがやドーム

種目・階級：男子ダブルスB

成績：優勝

選手氏名：3A小林祐太、3E長亮佑

大会名：埼玉県学校総合体育大会北部支部予選会

開催日：平成31年4月12日(金)・13日(土)

開催場所：くまがやドーム(12日)、熊谷市民体育館(13日)

種目・階級：学校対抗

成績：優勝(男子)、2位(女子)

大会名：関東高等学校体育大会バドミントン大会

埼玉県予選会

開催日：平成31年4月27日(土)・28日(日)・29日(月)

開催場所：上尾運動公園体育館

種目・階級：学校対抗

成績：5位(男子)、5位(女子)

◆ラグビー部

新人戦県北大大会

1回戦 12月15日(土) 早大本庄 45-14 松山

準決勝 12月22日(土) 熊谷工業 12-5 早大本庄

3位決定戦 1月7日(月) 早大本庄 19-17 熊谷

新人県大会

1回戦 1月13日(日) 昌平 61-0 早大本庄

関東大会県予選

1回戦 4月14日(日) 深谷 73-0 早大本庄

国体県大会北部予選

準決勝 5月3日(金・祝) 熊谷 13-7 早大本庄

3位決定戦 5月6日(月・祝) 早大本庄 99-7 松山

ラグビー部は現在、5月25日からの国体県大会で勝ち進み、秋の全国大会県予選のBシード獲得を目指して日々精進しています。引き続き応援のほど、よろしくお願い致します!!1年生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです!!今年はワールドカップ・イヤーでもあります。ラグビー部はいつでも入部OKですので、少しでも興味のある人は是非グラウンドへ見学に来て下さい!!

◆ソフトテニス部(男子)

関東大会県予選北部支部予選会・男子個人戦

(1次：4月22日@熊谷さくら、2次：24日@東松山市営)

ベスト4 吉江隆一朗(2H)・河野稔也(2E)・ベア

ベスト8 儘田雄士(3C)・玉貴陽都(2E)・ベア

※上記2ペアが県大会出場権獲得。

関東大会県予選会・男子個人戦(5月3日@狭山智光山)

ベスト64 吉江・河野・ベア

関東大会県予選会・男子団体戦(5月5日@くまがやドーム)

2回戦：早大本庄③-0 幸手桜

3回戦：早大本庄0-②川越

◆ソフトテニス部(女子)

関東大会県予選北部支部予選会・女子個人戦

(4月24日@熊谷さくら)

ベスト8 岡本百葉(1F)・今泉菜々(1F)・ベア

ベスト16 小澤七菜(3G)・樋口濃(2A)・ベア

※上記2ペアが県大会出場権獲得。

関東大会県予選会・女子個人戦(5月4日@熊谷さくら)

ベスト64 岡本・今泉・ベア

関東大会県予選会・女子団体戦(5月6日@くまがやドーム)

2回戦：早大本庄②-1 大宮南

3回戦：早大本庄1-②岩槻商

◆硬式テニス部(男女)

関東予選大会埼玉県北部地区予選

(4月12日～15日、県大会出場分)

女子シングルス 優勝 山村明日美、準優勝 杉本沙弥、

3位 田中紗貴、4位 長谷川柚希、15位 梶川 恵理香

男子シングルス 優勝 村松 海斗、4位 武樋 力哉、

7位 野原 琢磨、10位 藤井 祐弥、15位 高 駿、

22位 滝澤 開登

女子ダブルス 優勝 山村・田中、5位 杉本・葛西、7位

梶川・長谷川(柚)

男子ダブルス 優勝 村松・武樋、4位 野原・藤井、6位 高・

滝澤

関東予選大会埼玉県大会(4月27日～29日)

女子シングルス ベスト32 山村明日美

男子シングルス ベスト64 村松 海斗

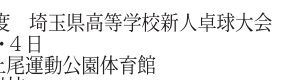
女子ダブルス ベスト32 山村・田中、杉本・葛西

男子ダブルス ベスト32 野原・藤井

関東予選大会団体戦(5月11日～12日)

女子 山村・杉本・田中・長谷川・葛西 ベスト16

男子 村松・野原・藤井・高・滝澤 ベスト16



◆卓球部

大会名 平成30年度 埼玉県高等学校新人卓球大会

開催日 2月2・3・4日

開催場所(会場) 上尾運動公園体育館

種目 女子学校対抗

成績 ベスト16

※ 県でベスト16にまで勝ち上がったのは快挙です。

大会名 卓球関東大会北部地区予選

開催日 4月25・26・27日

開催場所(会場) くまがやドーム体育館

種目 学校対抗 男女ともにベスト8に入り、県大会出場

女子ダブルス 松田(3C)・竹内(3B)県大会出場

※ 学校対抗において男女ともに県大会に出場するのは、本校はじまって以来、初めてのことです。

大会名 令和元年度 関東高等学校卓球大会埼玉県予選会

開催日 5月3・4・5日

開催場所(会場) 上尾運動公園体育館

種目 女子ダブルス 松田(3C)・竹内(3B)

成績 ベスト32

◆スキー部

平成30年度 学総体スキー競技会 埼玉県予選会

1月7日(火) 男子大回転 松永侑也 20位

1月8日(水) 男子回転 松永侑也 12位

第54回 関東高等学校スキー大会

1月28日(月)～30(水) 松永侑也 男子大回転・回転と

もに出場

◆自転車部

埼玉車連ステーゼレース(クリテリウム大会)第2戦

開催日：2019年1月13日(日)

会場：川島町小見野

小高慧(現2F) ジュニア初級4位

埼玉車連ステーゼレース(クリテリウム大会)第3戦

開催日：2019年2月17日(日)

会場：川島町ハツ林

加藤 匠(現3A) ジュニア初級1位

小高 慧(現2F) ジュニア初級2位

関東高等学校自転車競技大会県予選会

開催日：2019年5月7日(火)

会場：群馬サイクルスポーツセンター

小高慧(2F)ワンディ・ロードレース45位

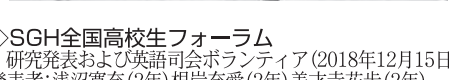


◇早稲田大学本庄高等学院SGH「思い愛隊」

「第22回ボランティア・スピリット・アワード」コミュニテ

ィー賞を受賞(2018年2学期)

隊長 大畑璃子(2D) 副隊長 関智美(2F)、白戸二花(2A)



◇SGH全国高校生フォーラム

研究発表および英語司会ボランティア(2018年12月15日)

発表者：浅沼寛奈(2年)根岸奈愛(2年)美才寺花歩(2年)

松沼花音(2年)中山美穂(1年)石澤咲希(1年)

英語司会者：常澤 孝(2年)伊藤風沙(1年)津金 葵(1年)

◇SGH甲子園

ポスター発表部門(英語の部、2019年3月23日)

白戸二花(2年)大畑璃子(2年)関 智美(2年)永尾一晟(1年)

太田 楓(1年)栗本 賢(1名)西川なずな(1年)